



## 第 2 章

### 益城町が抱える課題と都市づくりの目標

- |                |      |
|----------------|------|
| 1. 益城町の概要      | 2- 1 |
| 2. 地域特性などからの課題 | 2- 2 |
| 3. 都市づくりの課題    | 2- 3 |
| 4. 将来人口の推計     | 2- 4 |
| 5. 都市づくりの理念と目標 | 2- 5 |

### 1. 益城町の概要

#### 1-1 位置及び地勢

現在の益城町は、昭和 29(1954)年 4 月に、木山町、広安村、飯野村、福田村、津森村の 5 町村が合併して誕生したものです。

位置的には熊本県の中央北寄りに位置し、西は熊本市、南西は嘉島町、南は御船町、東は阿蘇郡西原村、北は菊池郡菊陽町に接しています。

熊本市に隣接する立地特性や、阿蘇くまもと空港、九州自動車道益城熊本空港インターチェンジ(以下、「益城熊本空港 IC」という。)を有する交通特性などの優位性のもと、人口流入が進んでいましたが、平成 28(2016)年 4 月に発生した熊本地震の影響により、人口は減少傾向へ転じています。

町の総面積は 6,568ha で、長さは、東西約 11km、南北約 13km、周囲約 48km となっています。



▲飯田山山頂からの眺望

## 2. 地域特性などからの課題

### 2-1 地域特性に基づく課題

#### 2-1-1 社会特性

- ・将来的な人口減少や少子高齢化による経済状況の悪化を踏まえた土地利用の推進や無秩序な市街地拡大の抑制
- ・働く場の確保や子育て環境の充実、医療・福祉施設の充実による魅力的な住環境形成の取組
- ・人口減少などによる町の財政悪化を踏まえた公共公益施設の維持管理

#### 2-1-2 土地利用特性

- ・効率的な土地利用誘導による低未利用地の増加や住環境悪化の抑制
- ・市街化調整区域での無秩序な開発行為の抑制
- ・都市公園の不足を解消するための公園の整備や適正配置の推進
- ・空港や益城熊本空港 IC を活かした交通ネットワークの形成及び企業誘致などの産業振興の推進
- ・現状の市街地及び今後の都市的土地利用の動向を踏まえた将来都市構造の形成

### 2-2 アンケート調査結果などに基づく課題

#### 2-2-1 生活環境の課題

- ・生活サービス施設の不足による生活利便性の低下への対応
- ・医療施設、医療体制の充実
- ・住宅地などの身近な緑の創出及び歴史のある緑の保全

#### 2-2-2 交通環境の課題

- ・災害に強く、安全、安心な道路網や歩きやすい歩行者空間の整備
- ・周辺市町村を繋ぐ都市間バス及び日常生活のためのきめ細やかな公共交通網の形成による交通利便性の向上

#### 2-2-3 産業活動の課題

- ・商業やサービス業の店舗などの不足による商業機能の低下
- ・働く場及び働きやすい環境の不足

#### 2-2-4 公共公益施設の課題

- ・子どもたちが遊び、コミュニティ形成の場となる公園の整備
- ・誰もが利用しやすいバリアフリー化が整った公共公益施設の整備
- ・災害に強いライフライン(電気、ガス、通信、上下水道など)の強化

### 2-3 政策課題

- ・震災復興関連事業による既成市街地の早期再生
- ・効率的な市街地形成と公共交通ネットワークの形成による集約型都市構造の実現に向けた取組
- ・県道熊本高森線沿道の活性化及び都市機能の誘導による商業地の賑わい回復
- ・県道熊本高森線の拡幅整備に伴う沿道の土地利用の推進
- ・益城熊本空港 IC 周辺地区への産業機能の計画的誘導
- ・新住宅エリア整備促進のための基盤整備の推進

- ・災害時の避難地の確保及び避難地までの緊急避難道路の整備
- ・森林や河川などの自然環境の保全と活用

### 3. 都市づくりの課題

#### 3-1 車に頼らず歩いて生活できる市街地への転換が必要です

---

- 人口減少や少子高齢化を起因とする生活利便施設の減少への対応
- 点在する生活利便施設の適正な立地誘導
- 地域特性に応じた拠点の配置と、役割に応じた不足施設の確保

#### 3-2 災害に強い復興まちづくりの実現が求められます

---

- 地震災害への不安を払拭する災害に強い市街地形成への取組
- 様々な災害に対応できる避難施設や都市基盤の強化
- 地区別まちづくり協議会との連携による復興まちづくりへの取組

#### 3-3 企業誘致や地場産業の活性化による職住一体型のまちづくりが求められます

---

- 商業の活性化による都市機能の充実を図るための中心市街地の形成
- 阿蘇くまもと空港や益城熊本空港ICを活かした企業立地の取組
- 工業の活性化及び企業の誘致などによる働き場所の確保

#### 3-4 幹線道路ネットワークの早期構築が必要です

---

- 未整備都市計画道路の整備による幹線道路網の形成
- 災害時の緊急輸送路の確保
- 緊急車両の通行が困難な狭あい道路の解消

#### 3-5 自然環境の保全と活用に向けた取組が必要です

---

- 広大な農地や緑地の保全
- 河川などの生活に身近な自然資源の活用

#### 3-6 他都市との連携強化が必要です

---

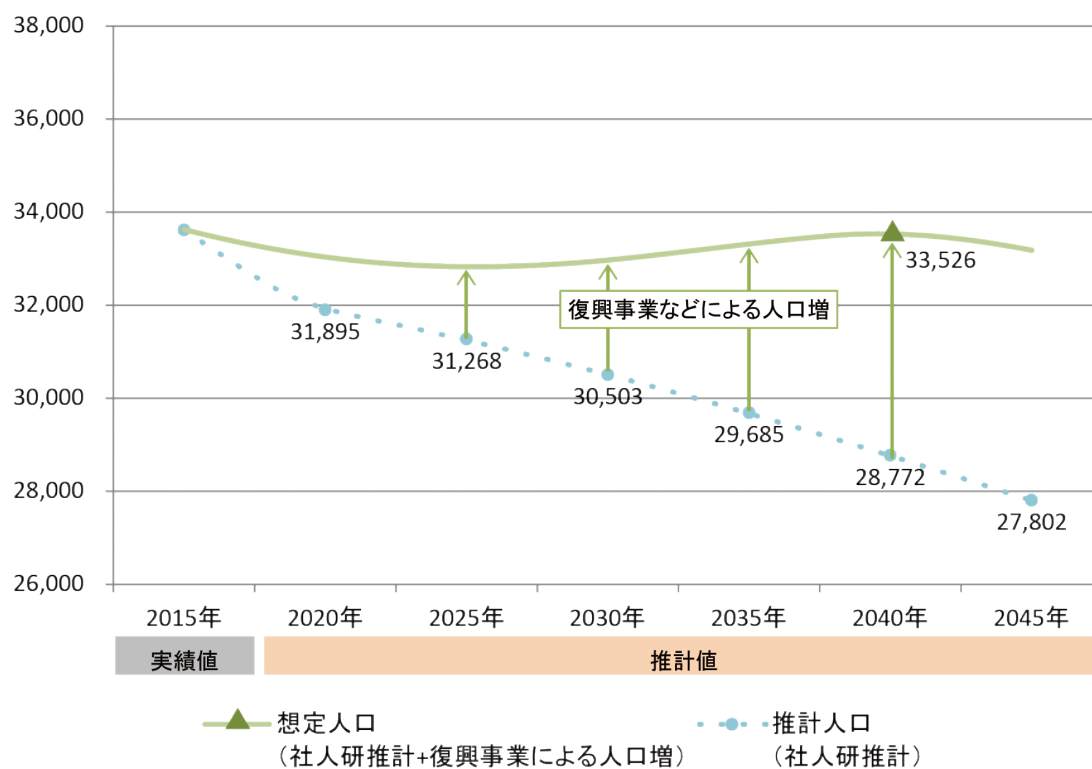
- 公共施設の相互補完による過剰投資の抑制
- 公共交通の都市間連携による交通の維持・充実
- 他都市との有機的連携による産業の振興

## 4. 将来人口の推計

### 4-1 将来人口の定義

本計画では、国立社会保障・人口問題研究所が公表している推計を基に、復興事業などによる人口の増加を考慮した想定人口を対象とします。

#### 《将来人口》



| 基準年次<br>(平成 31 年 3 月末時点) | 目標年次<br>(2040 年) |
|--------------------------|------------------|
| 32,837 人                 | 33,526 人         |

## 5. 都市づくりの理念と目標

課題を踏まえた、都市づくりの理念及び目標は以下に示すものとします。

### 5-1 都市づくりの理念

- ・益城町は、平成 28 年に発生した熊本地震の被害を受け、復興に向けた取組を町民や企業、行政が一体となって取り組んでいます。
- ・益城町の今後のまちづくりには、町民の不安を解消し、ずっと住み続けられる安全な町を目指すとともに、中心市街地※の活性化や産業振興によって、都市としての魅力向上を図る必要があります。
- ・2018 年 12 月に策定された第 6 次益城町総合計画では、「住みたいまち、住み続けたいまち、次世代に継承したいまち」をまちの将来像に設定しており、都市計画マスタープランもその考えを継承し、以下を都市づくりの理念として設定します。

#### 《都市づくりの理念》

阿蘇西麓の自然に育まれたゆとりある住環境と  
活力と魅力にあふれる都市形成による  
ずっと住み続けられる安全なまち

※中心市街地：本町における中心市街地は、惣領地区から木山地区の間において県道熊本高森線を軸とした沿道商業地が形成されている地区とする。

## 5-2 都市づくりの目標

### (1) 拠点の適正配置による生活利便の確保

町を代表する都市拠点の形成から集落拠点に至るまで、地域の特性に応じた拠点を適正に配置し、拠点の役割を分類することにより、町民の日常生活における利便性の確保を図ります。

### (2) 安全に生活できる市街地の形成

自然災害による被害を最小限に抑えるため、災害発生の危険性の高い場所での居住を抑制しつつ、人命優先の避難対策を強化することで、災害に強い市街地形成を図ります。

### (3) 中心市街地の賑わいの創出と産業振興の促進

本町の中心市街地においては、若い世代の働き場所の確保や定住促進を図るため、都市機能の集積や商業の活性化による賑わいの創出を図ります。また、新産業拠点などにおいて、産業の集積や新たな企業の誘致、立地などにより、雇用の場の確保を図るため、産業振興の促進を図ります。

### (4) 幹線道路ネットワークと地域公共交通網の充実

未整備都市計画道路の整備による町内幹線道路ネットワークの構築を図るとともに、超高齢社会に対応できる地域ニーズに応じた公共交通網の充実を図ります。

### (5) 豊かな自然資源を活かした潤いのある居住環境の形成

広大な農地や緑地、木山川や秋津川などの雄大な河川など、本町の豊かな自然資源を活用し、都心部では味わえない生活に潤いのある居住環境の形成を図ります。

### (6) 広域都市間連携による潜在需要の活性化

阿蘇くまもと空港や益城熊本空港ICなど広域交通結節機能を活かし、周辺他都市と都市機能や公共交通などの有機的な連携を図ることで、本町の潜在需要の活性化を図ります。